

## 1 国の動向

## (1) こども基本法の制定

令和5年4月1日、「子どもの権利を守る法律」として、こども基本法が施行されました。こどもの生活や権利が十分に守られていない状況で、若い世代の中でも「こどもを満足できる環境で育てられるか不安」と感じる風潮が強くなっています。

国は、こどもの利益を一番に考え、こども関連の取組を国の中心に据えることが重要という認識からこども基本法の制定を行いました。

## (2) こども大綱の閣議決定

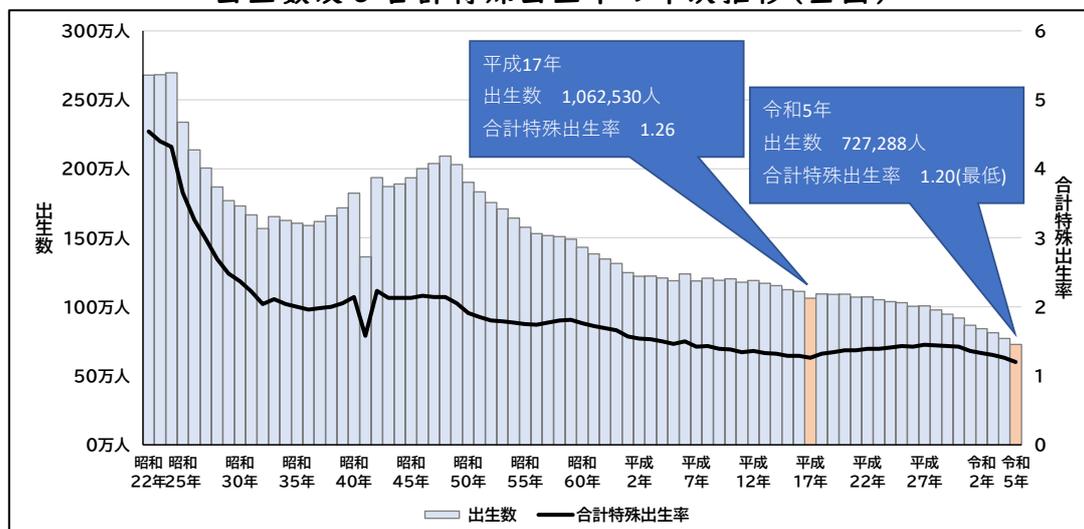
こども基本法第九条には、「政府は、こども施策を総合的に推進するため、こども施策に関する大綱を定めなければならない」とあり、令和5年12月に「こども大綱」が閣議決定されました。

こども大綱では「こども」から「こどもや若者」と対象が広げられ、「若者」については20代、30代を中心とする若い世代とされています。

## (3) 止まらない少子化

国における出生数は減少傾向で推移しており、令和5年には727,288人となっています。また、合計特殊出生率は、平成17年に過去最低の1.26を記録して以降増加傾向に転じていましたが、平成27年以降再び減少に転じ、令和5年には過去最低の1.20となりました。人口維持に必要な2.07には大きな隔たりがあります。

出生数及び合計特殊出生率の年次推移(全国)

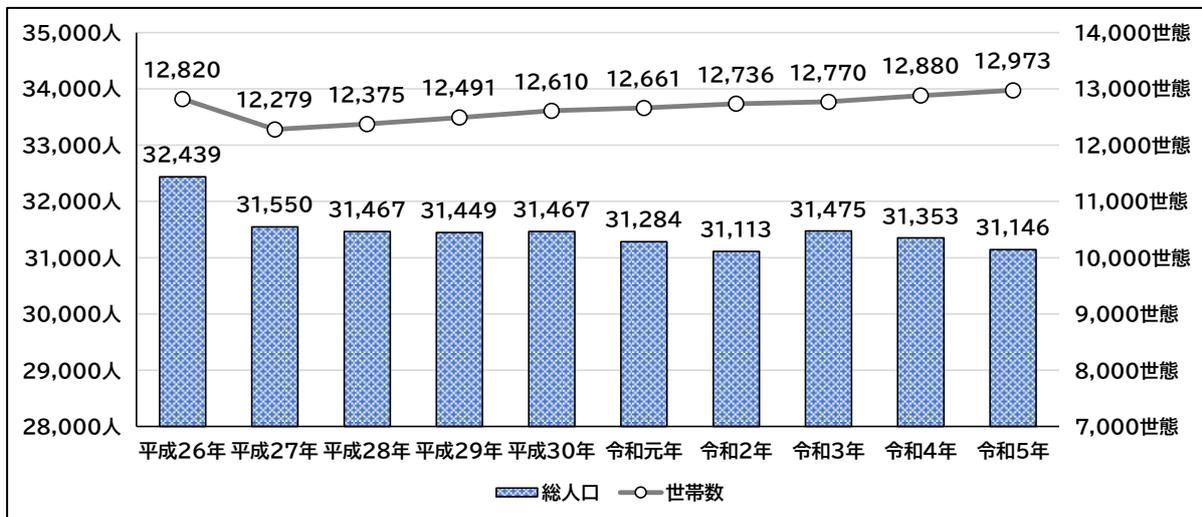


資料：厚生労働省「人口動態統計」

## (1) 人口・世帯等の推移

本町の人口（各年1月1日現在）は、平成26年以降減少傾向を示していましたが、令和3年に増加に転じ、その後はまた減少しています。令和6年の人口総数は31,146人となっています。世帯数は、平成27年以降一貫して増加傾向が続いており、令和6年は12,973世帯となっています。人口は微減傾向に対して、世帯数は増加傾向のため、1世帯あたりの人員は減少しており、平成27年の1世帯あたり人員2.57人から令和6年には2.40人となっています。

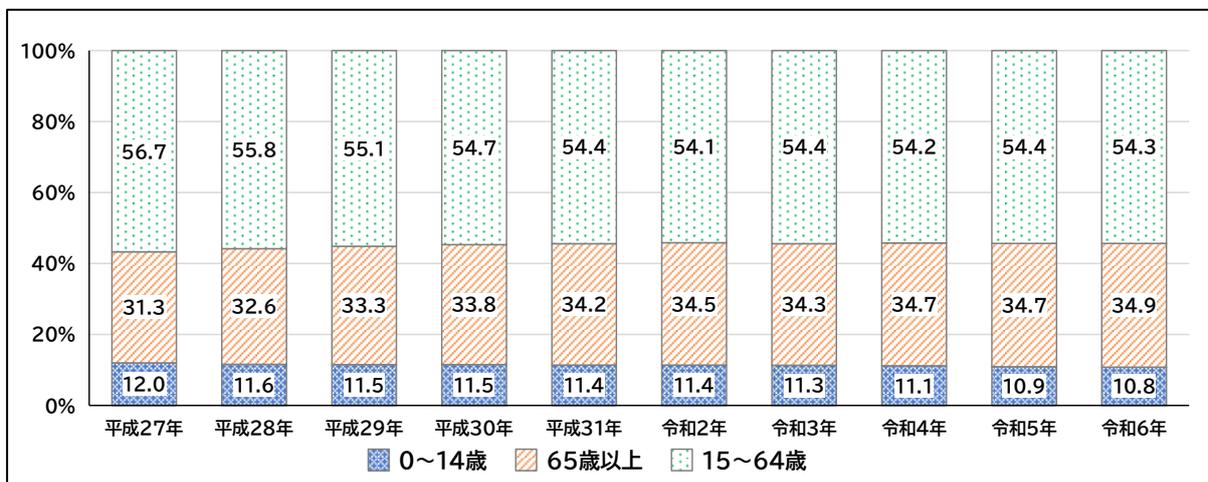
人口と世帯の推移



出典) 神奈川県人口統計調査

年齢3区分別人口構成の推移では、年少人口（15歳未満）、老年人口（65歳以上）の割合が減少する一方で、生産年齢人口（15～64歳）の割合が増加しています。

年齢3区分別人口構成の推移

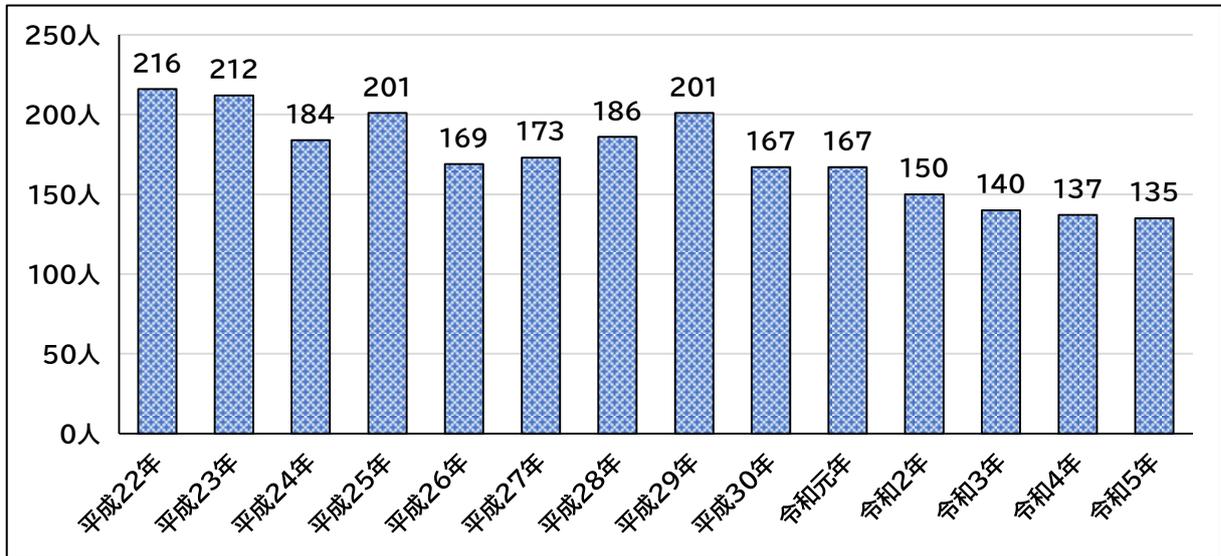


出典) 神奈川県人口統計調査

## (2) 出生数・合計特殊出生率

出生数は、平成26年の169人から微増が続いていましたが、平成30年は167人となり、その後減少が続いています。

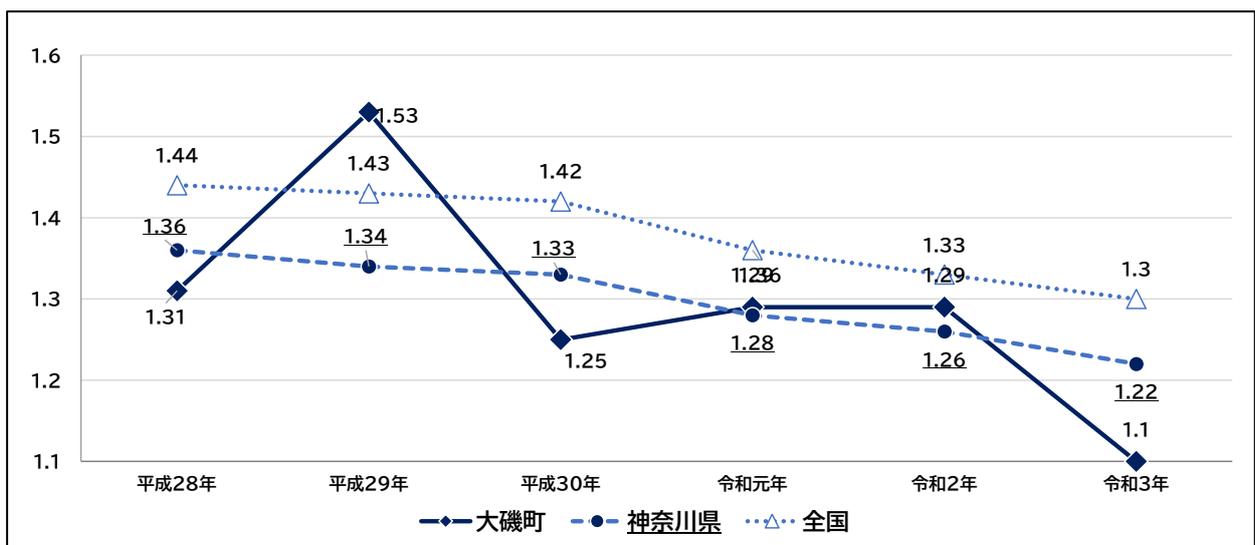
大磯町 出生数の推移



出典) 神奈川県人口統計調査

合計特殊出生率は、変動が大きく、全国平均や神奈川県平均を上回るときもあれば下回る時もありましたが、令和3年には1.1と全国平均や神奈川県平均を大きく下回っています。

合計特殊出生率の推移（全国、神奈川県、大磯町比較）

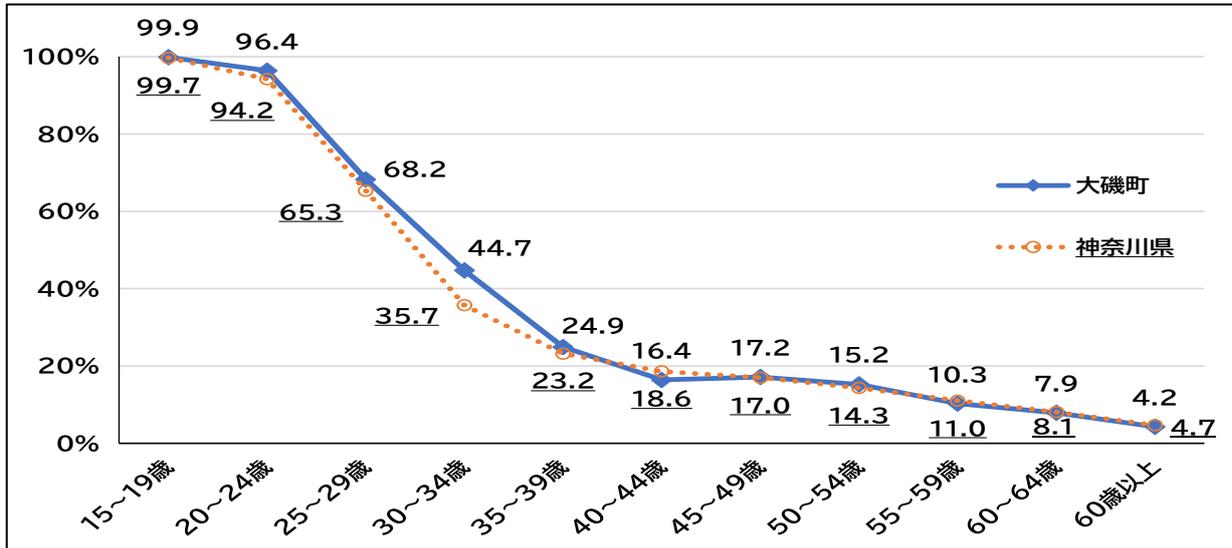


出典) 神奈川県衛生統計年報-神奈川県・大磯町/人口動態統計--全国

### (3) 未婚率

女性の未婚率は、神奈川県との比較では20～39歳の未婚率が高くなっています。

女性の未婚率（神奈川県、大磯町比較）

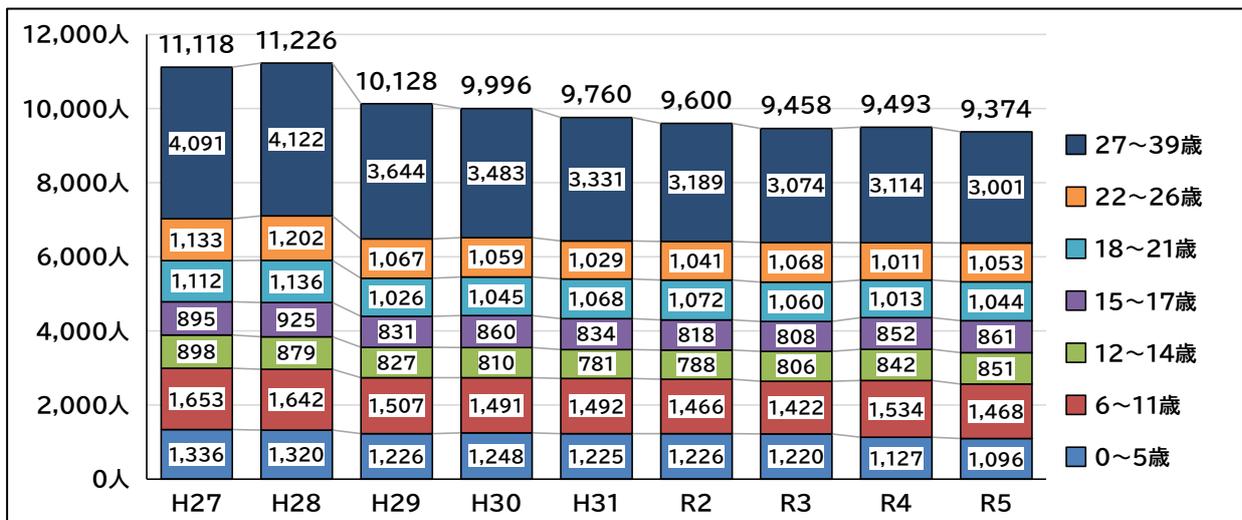


出典) 国勢調査 令和2年

### (4) こども人口

本町のこども人口（0～39歳）は平成28年の11,226人から令和5年の9,374人まで、減少傾向で推移しています。年齢階層別にみると、11歳未満と22歳以上で減少、12歳～21歳で微増となっています。

大磯町 こども人口の推移



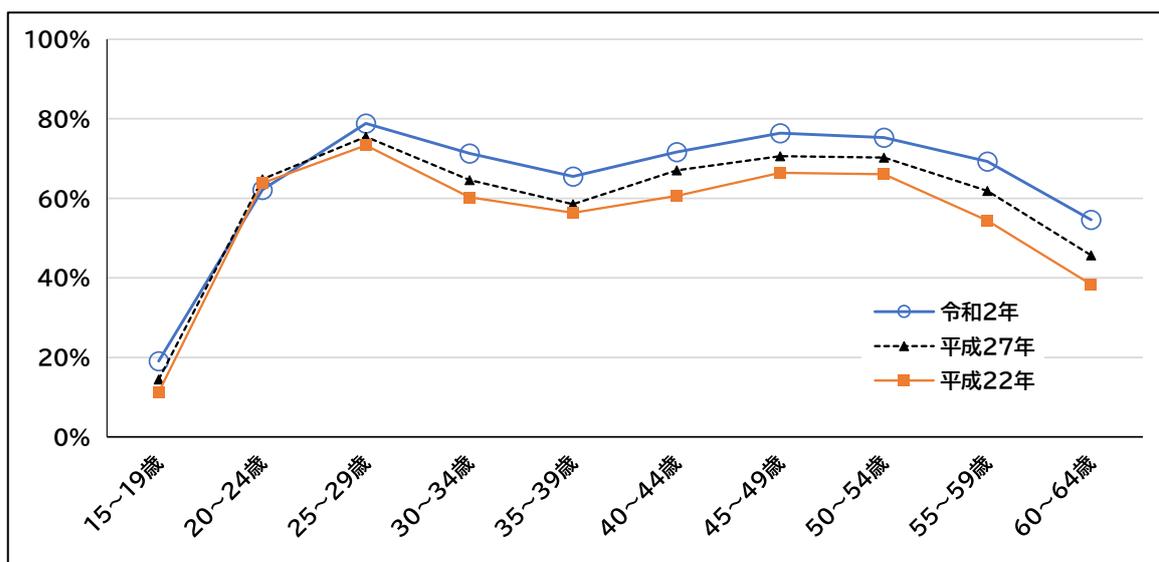
出典) 神奈川県人口統計調査

### (5) 女性の就業状況

女性の年齢別就業率は10年前の平成22年と比較すると、25歳以上の年齢層全般で増加しており、女性の社会進出がより顕著となっています。特に50歳代、60歳代の比較的高い年齢層での増加が目立ちますが、30歳代、40歳代も増加しています。

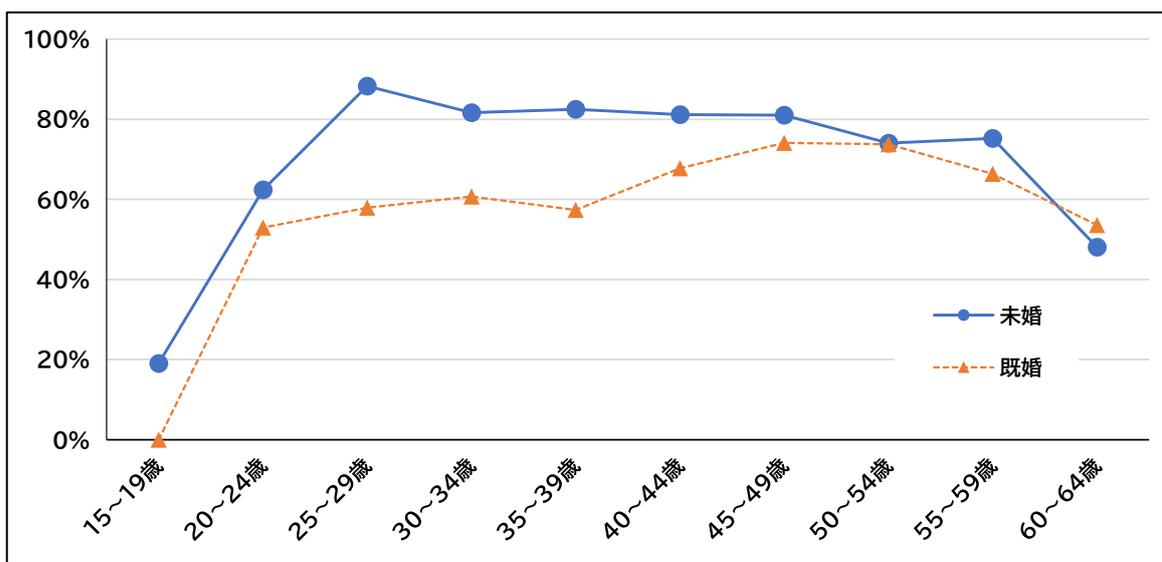
女性の未婚既婚別の就業率では、若い世代を中心に未婚の就業率が既婚の就業率を上回っています。

大磯町 女性の年齢別就業率推移



出典) 国勢調査 令和2年

大磯町 令和2年の女性の年齢別就業率 (未婚既婚別)

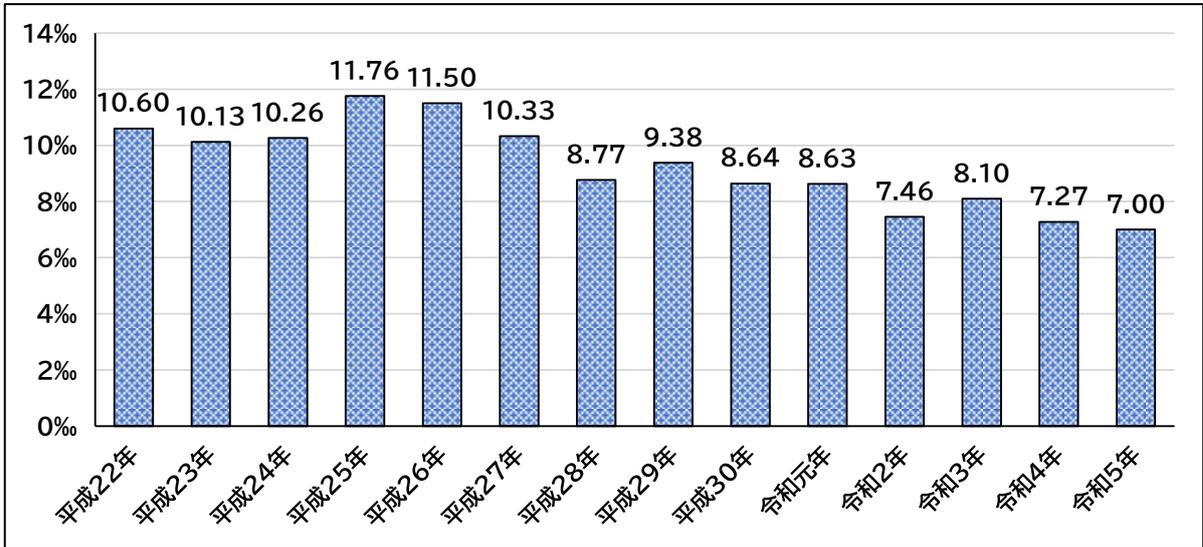


出典) 国勢調査 令和2年

(6) 婚姻・離婚

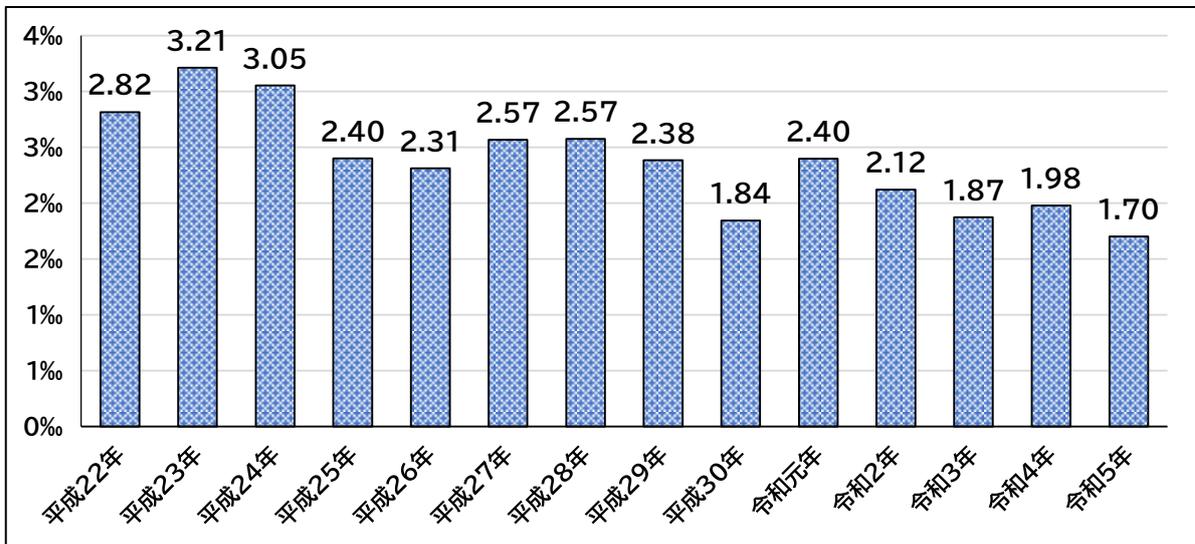
婚姻率、離婚率は、増減を繰り返しながら全体として減少傾向を示しています。

大磯町 婚姻率(人口1,000人対)推移



出典) 神奈川県衛生統計年報

大磯町 離婚率(人口1,000人対)推移



出典) 神奈川県衛生統計年報

(7) 共働き・ひとり親世帯

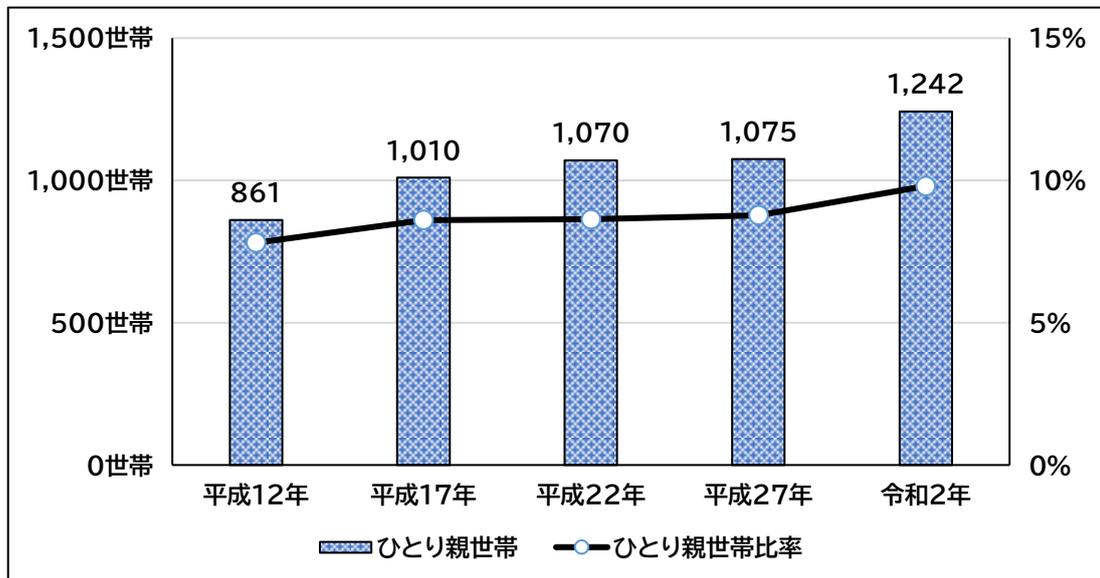
共働き世帯、ひとり親世帯は、増加傾向を示しています。

大磯町 共働き世帯の推移



出典) 各年国勢調査

大磯町 ひとり親世帯の推移



出典) 各年国勢調査

## (8) こども人口推計

計画期間である令和7年度から令和11年度までのこども人口の推計では、各歳で見ると微増・微減がありますが、「合計」をみると減少傾向が見込まれます。

年齢	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
0歳	135	128	123	119	115	113
1歳	179	148	138	133	128	125
2歳	166	185	154	144	138	133
3歳	163	168	188	157	146	140
4歳	200	170	174	194	164	152
5歳	212	209	180	182	202	173
小計(0～5歳)	1,055	1,008	957	929	893	836
6歳	243	215	212	182	184	204
7歳	244	252	224	220	190	191
8歳	239	249	257	229	225	194
9歳	235	242	251	260	232	227
10歳	248	238	245	255	263	235
11歳	251	250	241	247	257	266
小計(6～11歳)	1,460	1,446	1,430	1,393	1,351	1,317
12歳	279	253	252	243	249	259
13歳	301	283	257	256	246	253
14歳	254	300	282	257	256	246
小計(12～14歳)	834	836	791	756	751	758
15歳	297	258	304	286	260	259
16歳	290	296	256	302	285	259
17歳	285	291	297	258	304	286
小計(15～17歳)	872	845	857	846	849	804
18歳	285	286	293	299	259	305
19歳	258	273	273	280	286	246
20歳	279	258	273	273	280	285
21歳	254	274	252	268	267	275
小計(18～21歳)	1,076	1,091	1,091	1,120	1,092	1,111
22歳	213	239	257	234	251	249
23歳	212	193	221	236	211	231
24歳	189	193	173	203	215	189
25歳	191	168	174	154	187	195
26歳	181	172	150	159	138	172
27歳	175	172	164	142	153	130
28歳	159	166	163	155	134	145
29歳	205	152	161	158	150	129
30歳	175	200	146	157	153	145
31歳	176	176	201	147	158	154
32歳	192	176	176	200	147	157
33歳	175	195	180	180	204	151
34歳	200	173	193	177	177	202
35歳	248	205	176	196	181	181
36歳	245	248	204	176	196	180
37歳	281	256	258	214	184	203
38歳	273	280	255	256	212	183
39歳	365	288	292	267	267	224
小計(22～39歳)	3,855	3,652	3,544	3,411	3,318	3,220
合計	9,152	8,878	8,670	8,455	8,254	8,046
総人口に占める割合(%)	29.5	28.8	28.4	27.9	27.5	27.1

※こども人口の推計は、コーホート法により、基準年を令和3年、実績年を令和6年とし、最近の動向を反映した推計を行っています。

### 3 こども・若者の状況と課題

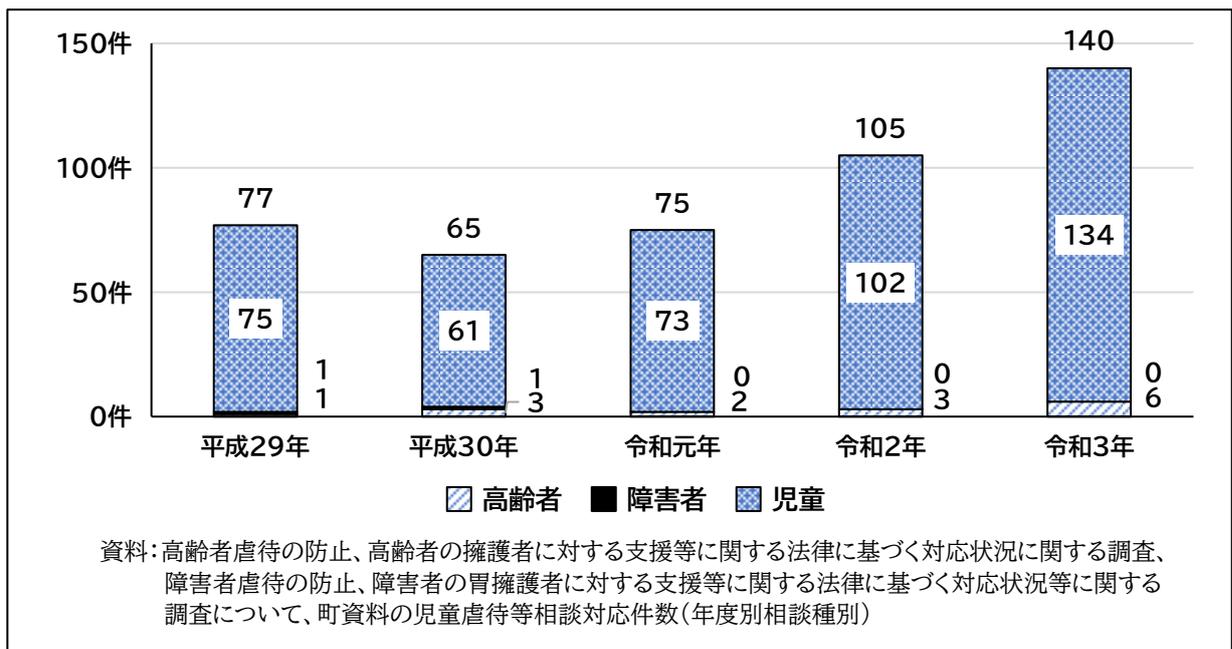
本町の若者の多くは現状の生活に充実感を感じており、家族との幸福な生活を求めていることが「大磯町子ども・若者支援に関するウェブアンケート調査」で分かりました。生活の満足度も9割が高い満足度を示しています。

このような若者を取り巻く環境を維持し、より良いものにしていくことはもちろんのこと、生きづらいつと感じる環境に置かれている若者も少なからず存在することから、すべての若者が生きづらさを感じることをないように施策の展開を図っていくことが求められています。

#### (1) 児童虐待

本町の虐待に関する相談数は平成30年以降増加傾向にあり、その大半は児童虐待に関するものが占めています。

虐待に関する相談数の推移（大磯町）

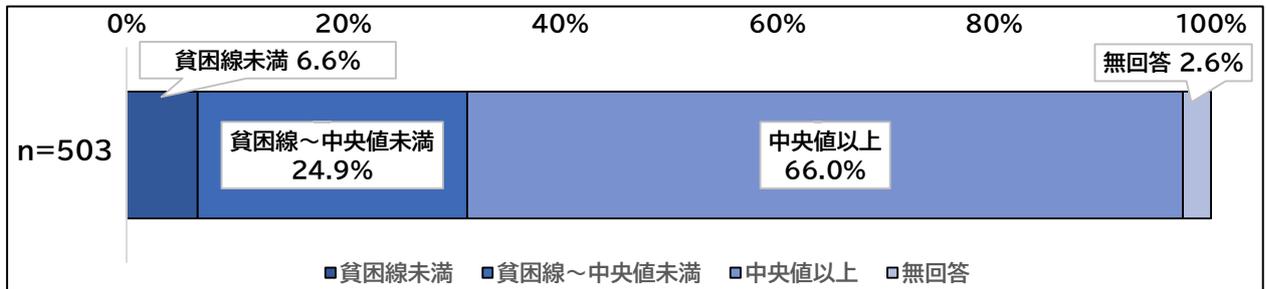


出典) 大磯町地域福祉計画

## (2) 貧困

本町における子育て中（未就学児）の世帯所得では、相対的貧困（貧困線未満）の割合は 6.6 %（33世帯）で、このうちひとり親世帯は 4 世帯でした。

子育て中（未就学児）の世帯所得にみる相対的貧困の割合

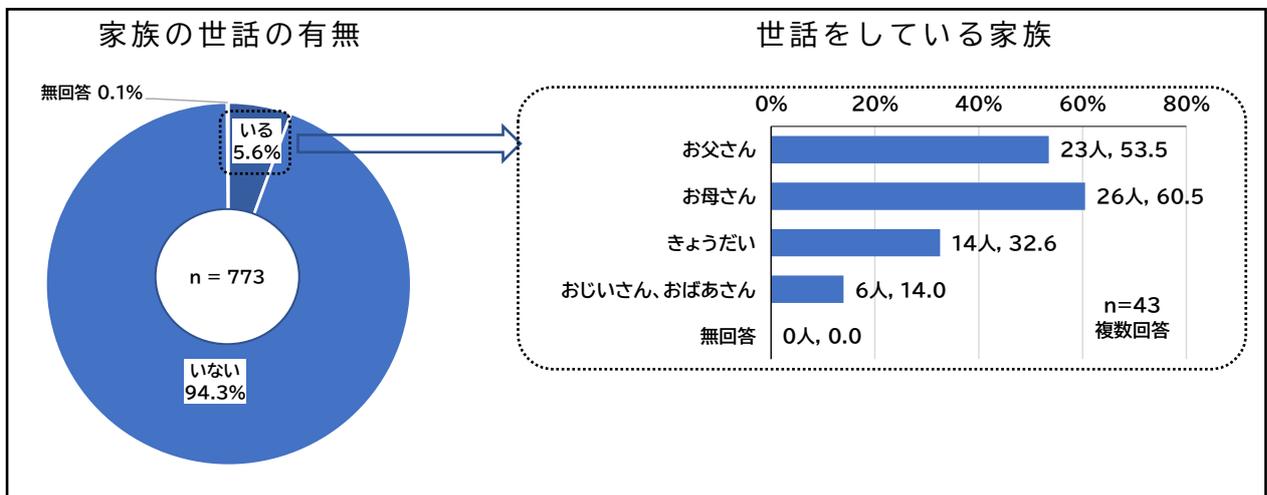


資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学）

## (3) ヤングケアラー

本町の若者（中学生以上）で家族の世話をしている人（ヤングケアラー）の割合は 5.6%みられ、家事、買い物、病院の付き添い、日常の見守り、兄弟の世話などに時間が割かれていることが分かります。

若者（中学生以上）で家族の世話をしている人の割合と世話をしている家族



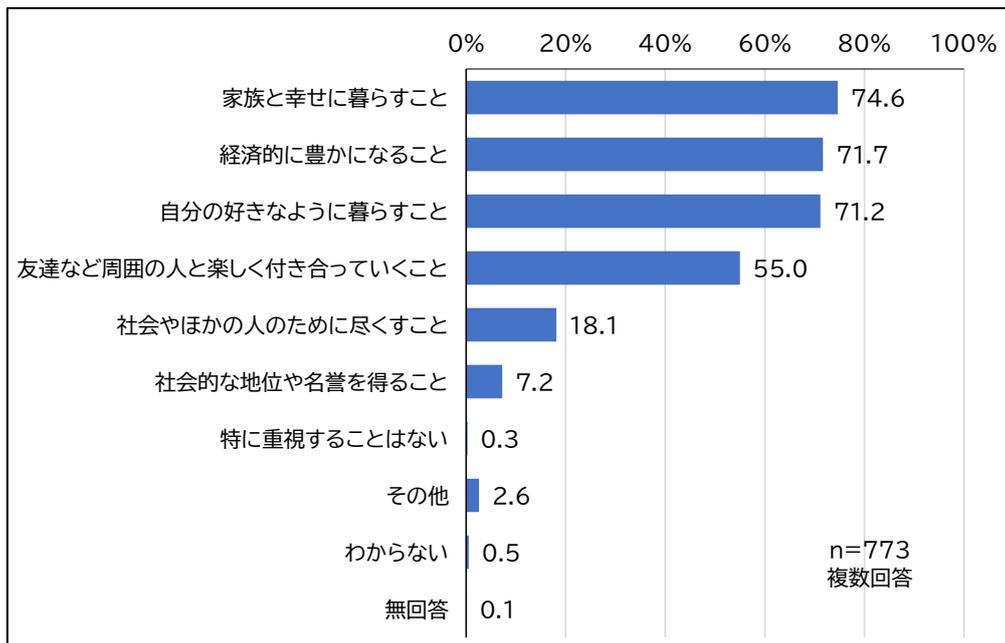
資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（中学生以上）

#### (4) 若者の生活意識

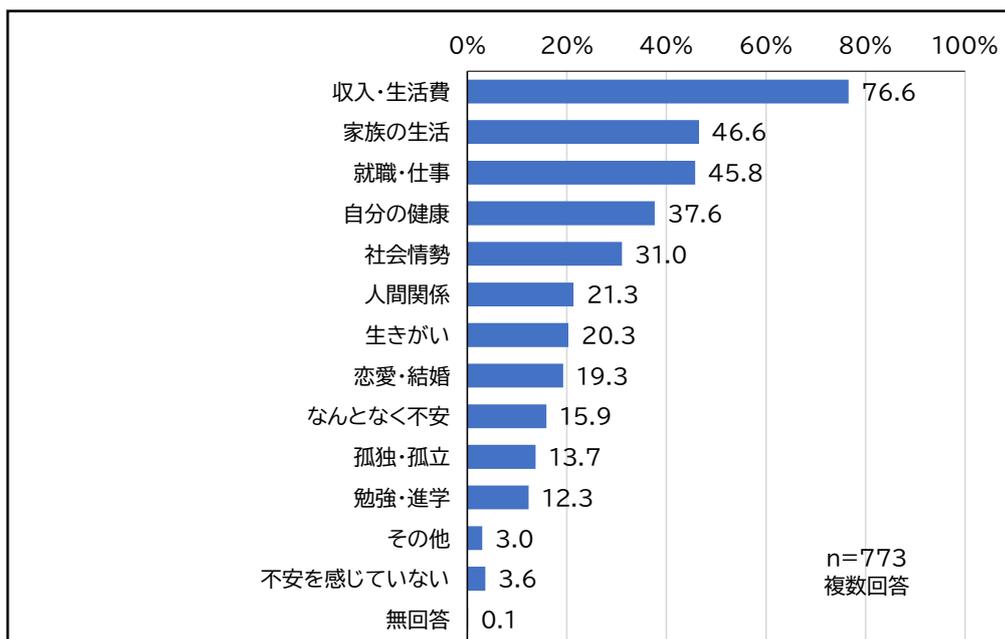
若者（中学生以上）が考える理想的な生き方は「家族と幸せに暮らすこと」であり、将来に向けては「収入生活費」に不安を感じています。

生活の充実度では、「自分のことを大切に思ってくれる人がいる」、「頼れる人（家族友人地域の人等）がいる」、「自分の居場所や役割（家庭地域学校等）がある」の回答が6割を超えており、現在の幸せ度では、「幸せ度8」が23.9%で最も高く、『幸せ度5～とても幸せ10』の割合は90.7%と9割を超えて高くなっています。『幸せ度4～とても不幸1』と回答した割合は9.2%みられました。

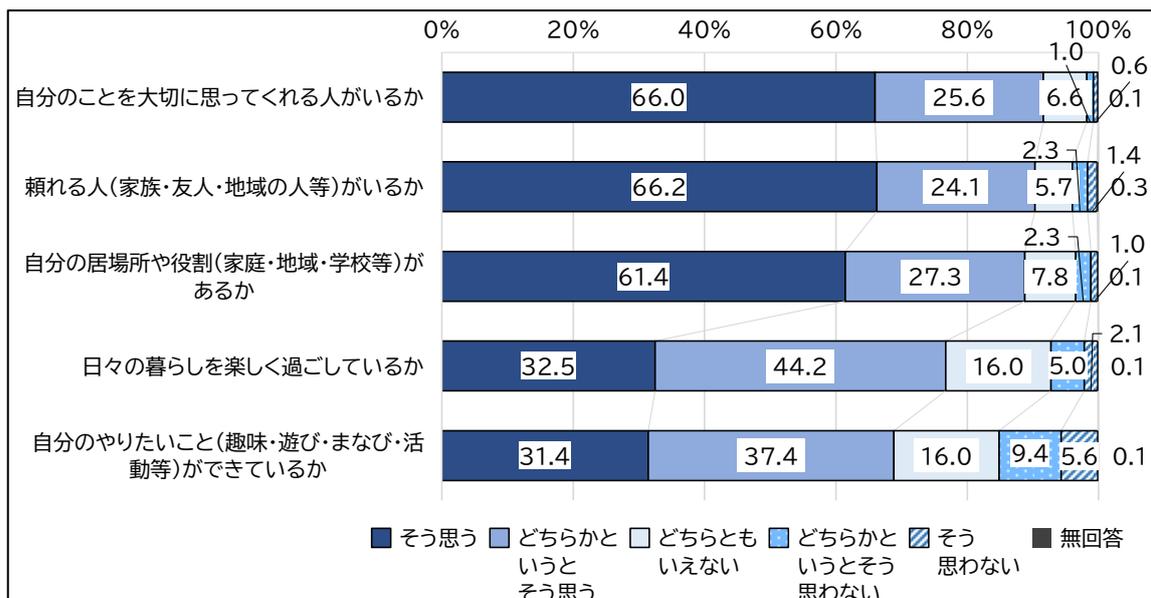
理想とする生き方



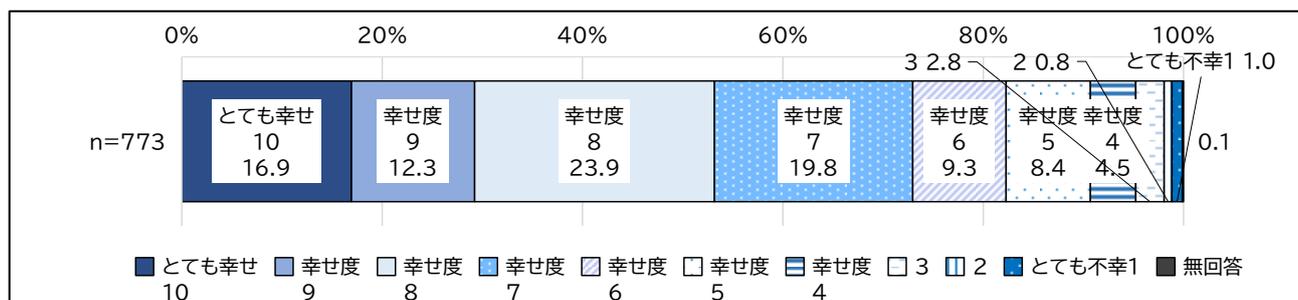
将来への不安



### 生活の充実度



### 現在の幸せ度



資料：（仮称）大磯町子ども計画策定にかかるニーズ調査（中学生以上）

昨今、女性の社会進出が進む中、男性が育児に関わるのはもちろんのこと、祖父母等の親族や知人の協力が重要です。

こどもの発熱や冠婚葬祭等の緊急時に、近くに協力者がいてくれることは子育ての大きな支えになります。就職等のため、一旦町外に移られたのち、大磯に戻って子育てをする方の理由の1つとして、近くに子育てを支援してくれる方がいることがあります。

今後、女性の就労支援に関わる子育て支援サービスの充実は勿論ですが、家族や地域で支えあって子育てをしている人たち、同居、近居、町内近居等に対する支援も考えていく必要があります。

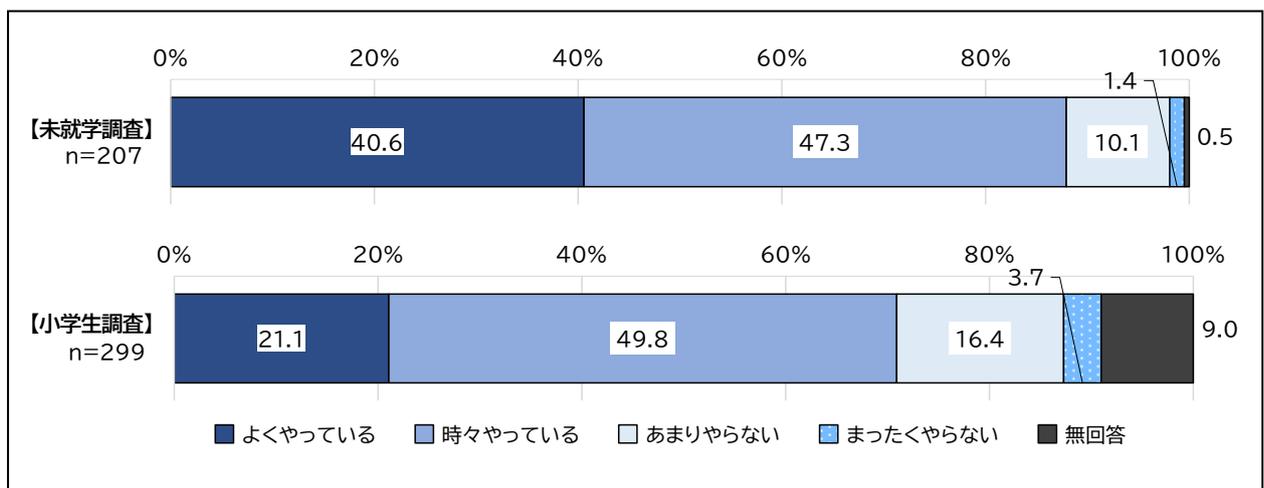
そのような環境が整えば、若い人たちが就労等で町外に出て行っても、子育てをする段階では大磯に帰ろうという気持ちになるのではないのでしょうか。

### (1) 家庭での子育ての状況について

配偶者の子育て協力状況は、未就学・小学生ともに「よくやっている」と「時々やっている」を合わせた<よくやっている>は、7割以上が夫婦で協力して子育てをしている傾向がうかがえます。

家族で協力して子育てをしている状況から、今後は、母親だけでなく父親への支援も必要と思われます。

配偶者の子育て協力状況

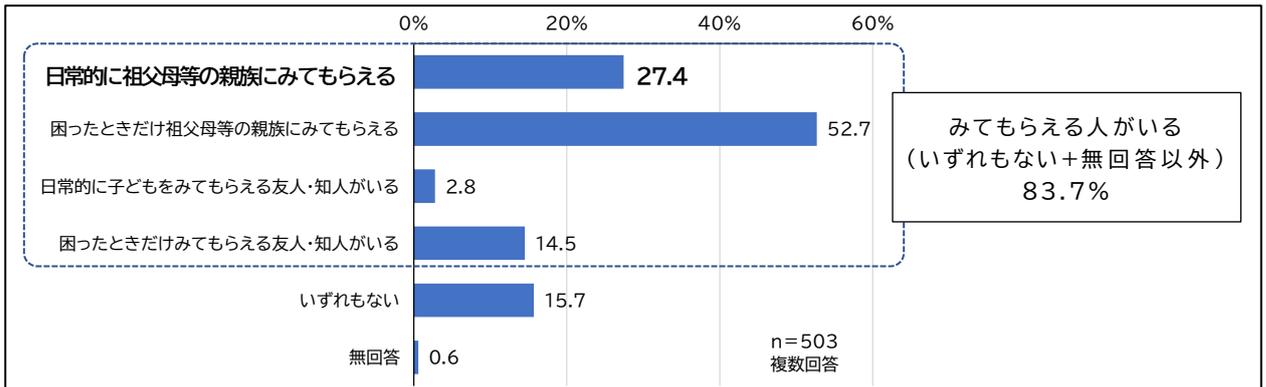


資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

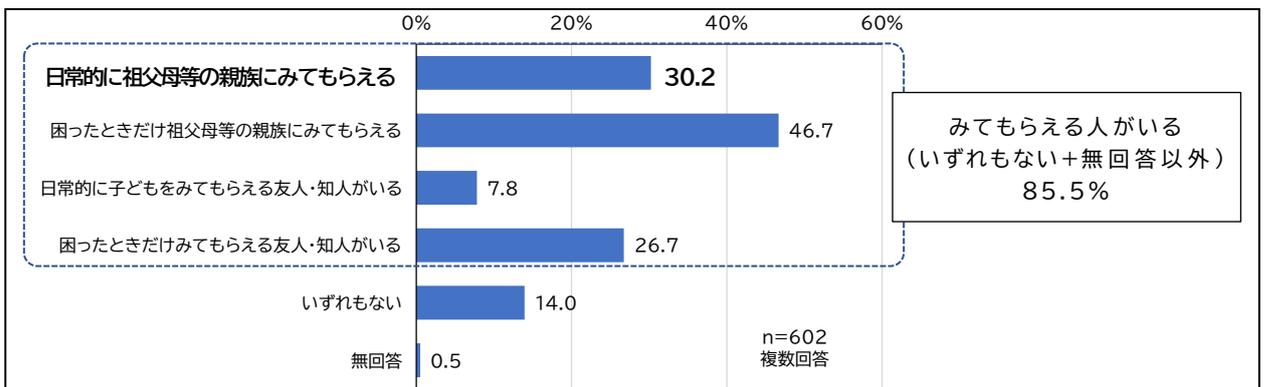
## (2) 子育てに関する周囲の協力状況について

未就学小学生ともに<みてもらえる人がいる>は8割台となっており、いざという時には親族や知人からの協力が得られる家庭環境にあるといえます。しかし一方で、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」は未就学では2割台後半、小学生では3割台となっており、日常的な協力を得ている家庭は少数派です。

日頃、「お子さん」をみてもらえる親族・知人はいるか  
【未就学調査】



【小学生調査】



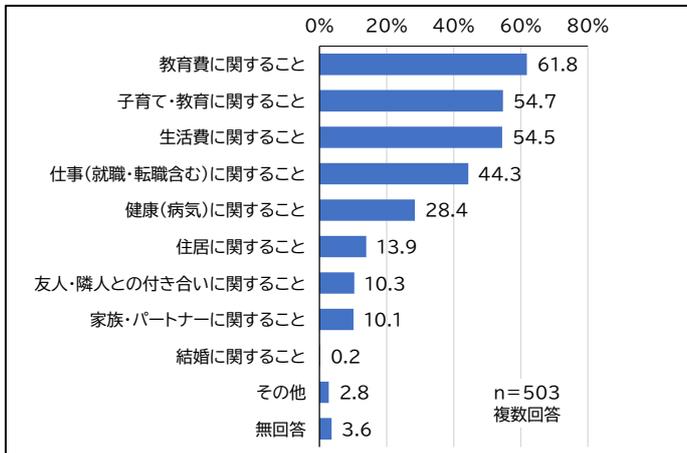
資料：(仮称)大磯町子ども計画策定にかかるニーズ調査(未就学・小学生)

### (3) 生活するうえでの不安や悩みについて

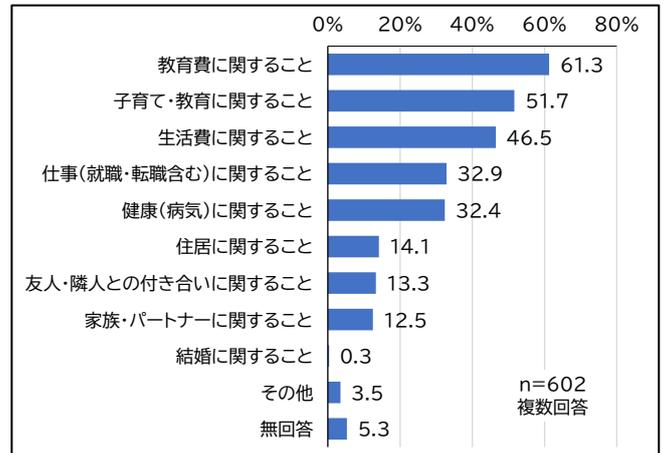
未就学・小学生ともに「教育費に関すること」が6割台で最も高く、次いで「子育て・教育に関すること」、「生活費に関すること」、「仕事に関すること」、「健康に関すること」の順に挙げられています。

#### 生活するうえでの不安や悩み

【未就学調査】



【小学生調査】



資料：(仮称)大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査(未就学・小学生)

### (4) 保護者の就労状況について

保護者の就況は、父親では未就学・小学生ともにフルタイム就労が9割以上を占めています。

母親の就労している割合を経年で比較すると、平成25年度調査(33.8%)、平成30年度調査(51.5%)、令和5年度調査(65.6%)と大きく増加しています。小学生では、<パートアルバイト就労(育休中の1.7%を含む)>が44.7%(平成30年度調査42.0%)と多く、就労している母親が72.5%と7割以上を占めています。

以下、父母の就形態等を考慮した「家族類型」を次の形で区分しました。

区分	内容	未就学児	小学生
ひとり親家庭	ひとり親(就労形態に関わらず)	2.0%	4.2%
フルタイム就労	両親ともにフルタイムで就労	39.2%	24.3%
フルタイムパート	両親のいずれかがフルタイム いずれかがパートタイム就労	22.7%	42.9%
専業主婦(夫)	両親のいずれかがフルタイムで就労している	33.0%	26.6%
パートパート	両親ともにパート	0.0%	0.0%
無職	両親ともに無職	0.0%	0.0%
分類不能	不明	3.2%	2.0%

就労状況を経年で比較すると、この10年の間に確実に共働き家庭が大きく増加しており、この変化に対応した施策を検討していく必要があります。

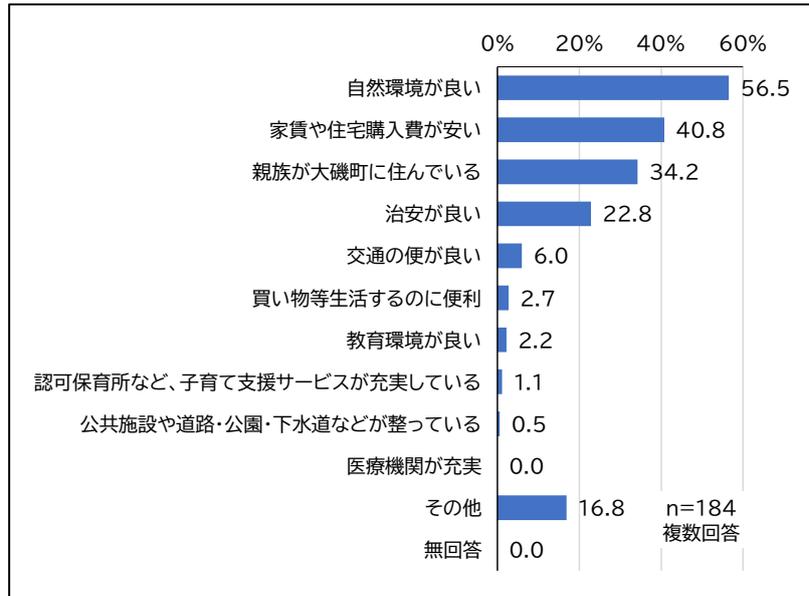
## (5) 大磯町に転入した理由について

(第1子が生まれたとき、又は妊娠の際、大磯町に住んでいなかった方)

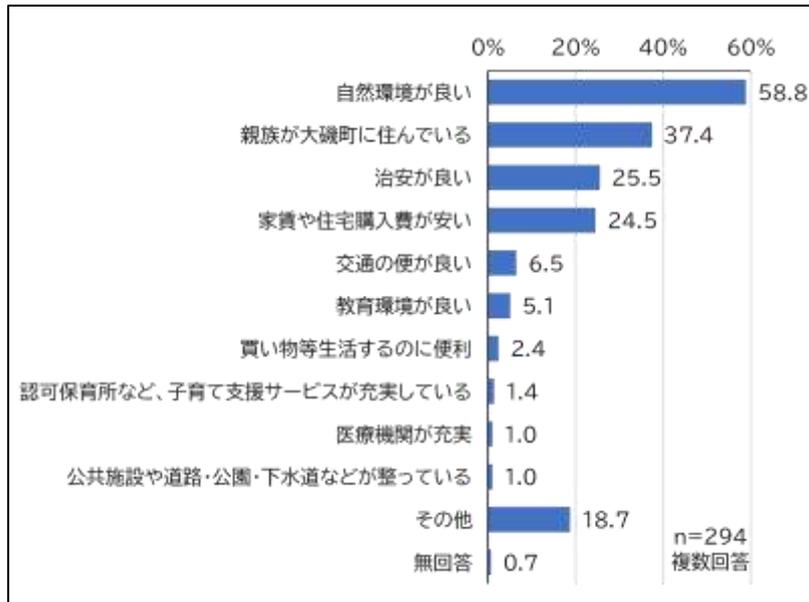
未就学での上位3位の項目は、「自然環境が良い」、「家賃や住宅購入費が安い」、「親族が大磯町に住んでいる」の順、一方小学生では「自然環境が良い」、「親族が大磯町に住んでいる」、「治安が良い」の順となっています。

### 大磯町に転入した理由

#### 【未就学調査】



#### 【小学生調査】



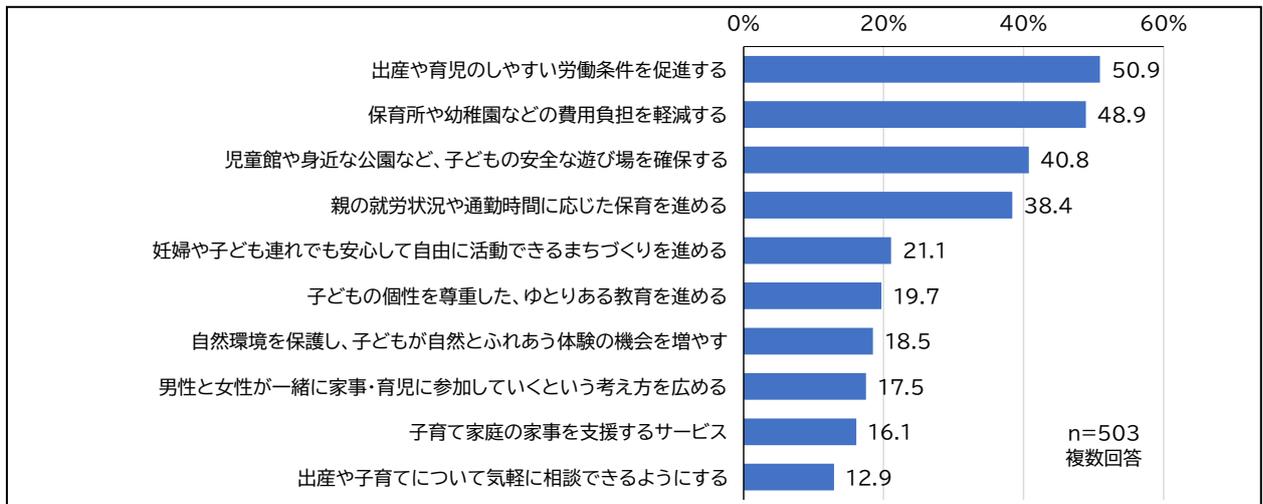
資料：(仮称)大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査(未就学・小学生)

## (6) 子どもを健やかに育てるために必要と思われることについて

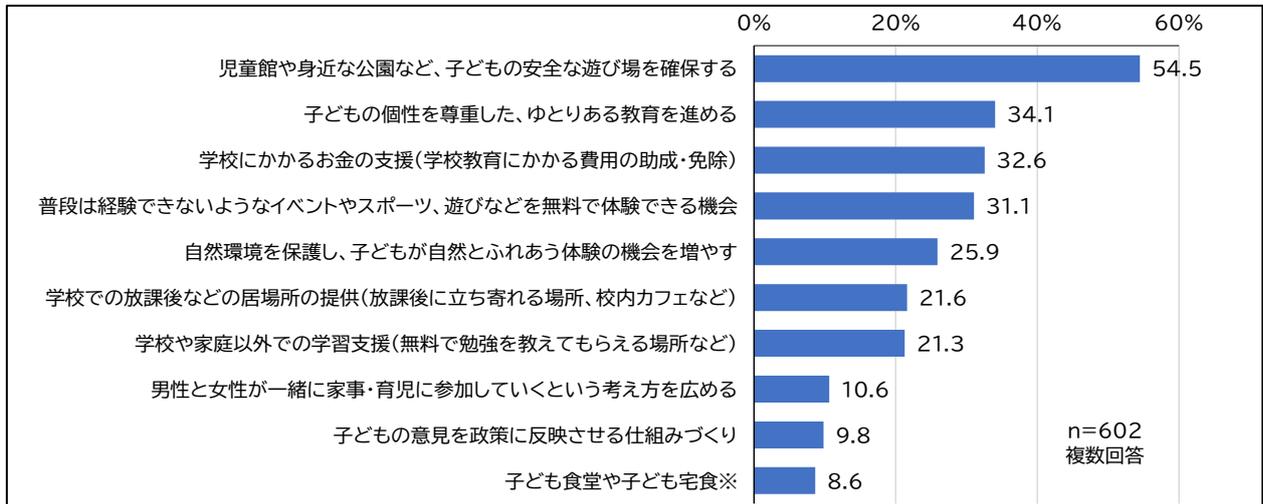
未就学での上位3位の項目は、「出産や育児のしやすい労働条件を促進する」、「保育所や幼稚園などの費用負担を軽減する」、「児童館や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」の順、一方、小学生では「児童館や身近な公園など、子どもの安全な遊び場を確保する」、「子どもの個性を尊重した、ゆとりある教育を進める」、「学校にかかるお金の支援（学校教育にかかる費用の助成免除）」の順となっています。

### 子どもを健やかに育てるために必要と思われること(上位10項目)

#### 【未就学調査】



#### 【小学生調査】



資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

本町における子育て環境や子育て支援の満足度は高く、その背景には、恵まれた自然環境に加えて、気軽の相談できる人や子育て仲間など、身近な親族知人友人といった存在の大きさがうかがえます。

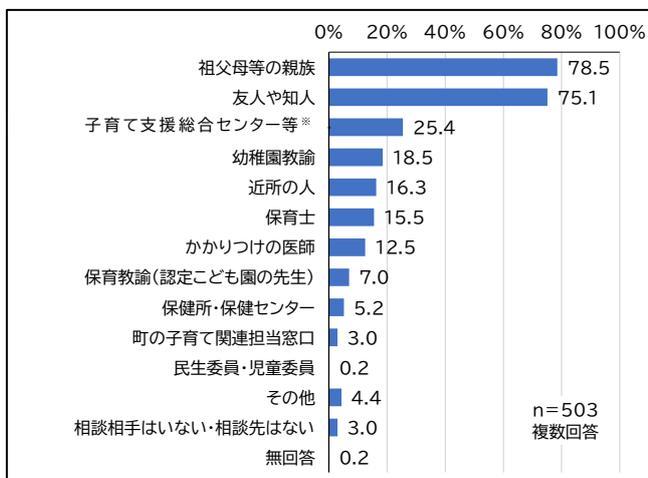
安心して子育てをするためには、「子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす」、「地域の大人たちが連携して、こどもの活動を育成支援する場をつくる」など、地域ぐるみの子育て支援が重要な課題となっています。地域ぐるみの子育て支援を進めることで、ひとり親家庭や相談できる人がいないなど孤立しがちな世帯に対して、孤立させない支援を進めていく必要があります。

### (1) 気軽に相談できる人、子育て仲間について

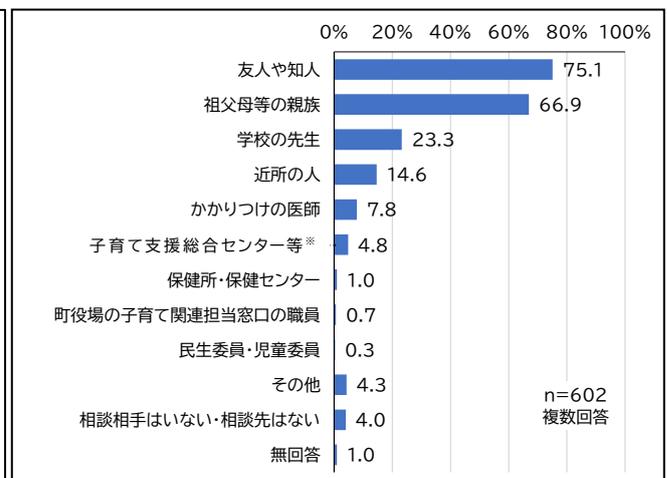
気軽に相談できる人については、未就学では「祖父母等の親族」と「友人や知人」が7割以上で高く、小学生では「友人や知人」が7割、「祖父母等の親族」が6割台挙げられていること、子育ての仲間については、9割以上の方がくいる>としていることから、身近な親族知人友人といった存在の大きさがうかがえます。

#### 気軽に相談できる人

【未就学調査】

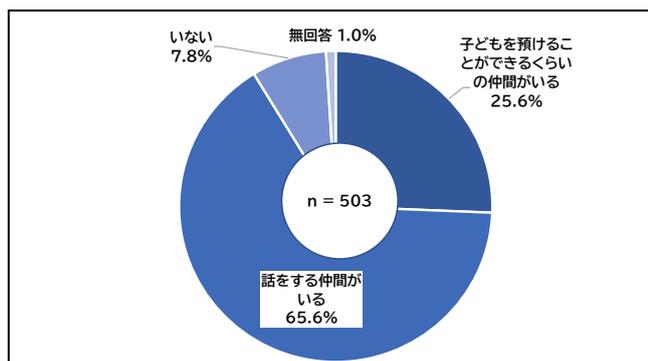


【小学生調査】

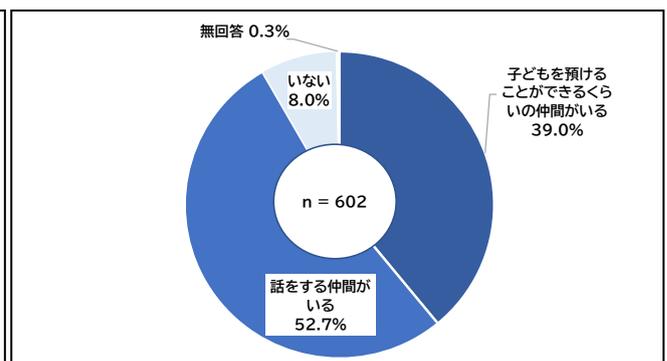


※ 子育て支援総合センター(めばえ) 子育て支援センター(すくすく) つどいの広場

【未就学調査】



【小学生調査】



資料：(仮称)大磯町子ども計画策定にかかるニーズ調査(未就学・小学生)

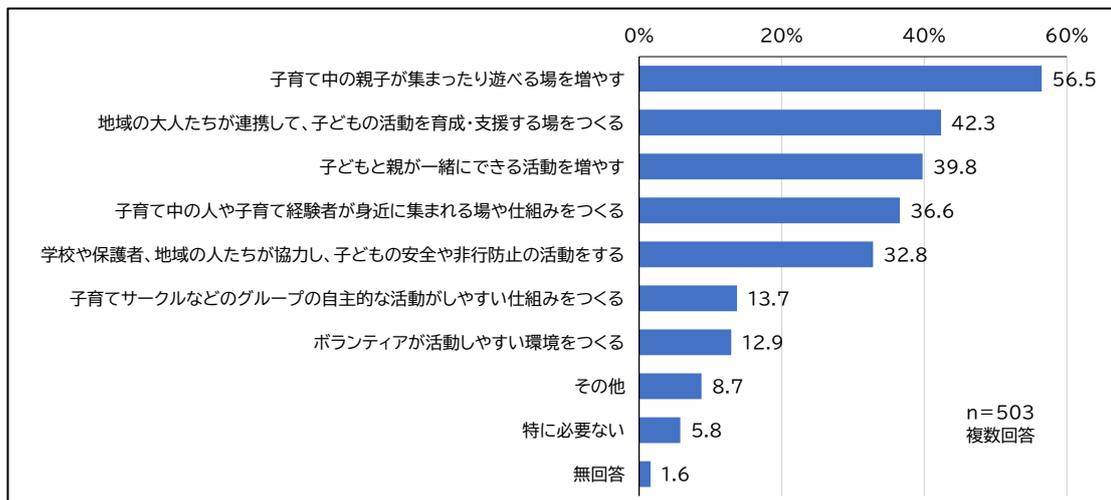
## (2) 安心して子育てをするために必要な地域の取組みについて

未就学では、「子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす」が6割弱、「地域の大人たちが連携して、子どもの活動を育成・支援する場をつくる」が4割強となっていることなどからも、地域ぐるみの子育て支援は今後も重要な課題となっています。

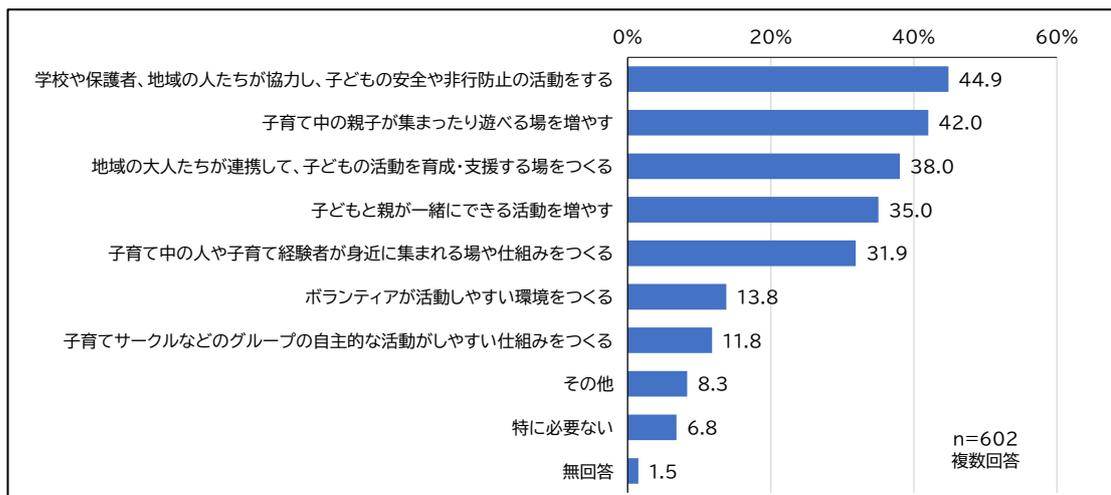
ひとり親家庭（本調査結果では2%、10名）では、両親のいる家庭に比べて「子どもを預けることができるくらいの仲間がいる」割合が1割（両親のいる家庭は2割～3割）と低く、「いない」が1割いること、相談できる人が「いない」も1割いることなどは地域支援に関する注目すべき結果であり、孤立させないための支援をより一層充実していくことも課題といえます。

### 安心して子育てをするために必要な地域の取組み

#### 【未就学調査】



#### 【小学生調査】

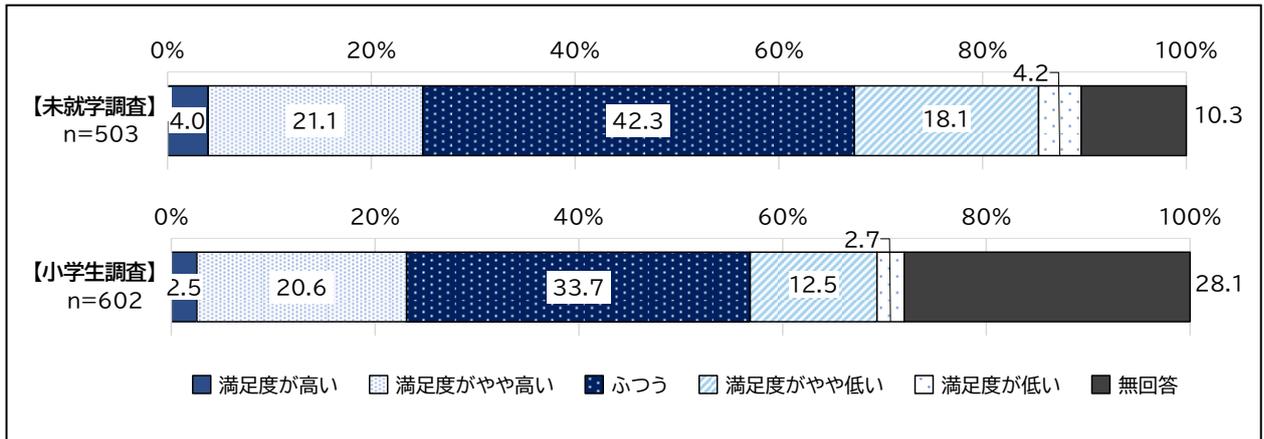


資料：（仮称）大磯町子ども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

### (3) 子育ての環境や支援の満足度について

未就学、小学生ともに、「ふつう」が3～4割で最も高く、次いで「満足度がやや高い」が2割代、「満足度がやや低い」が1割代の順となっています。「満足度が高い」、「満足度がやや高い」のどちらも小学生より未就学の方が高く、子育ての環境や支援の満足度は、小学生より未就学の方が高くなっています。

子育ての環境や支援の満足度

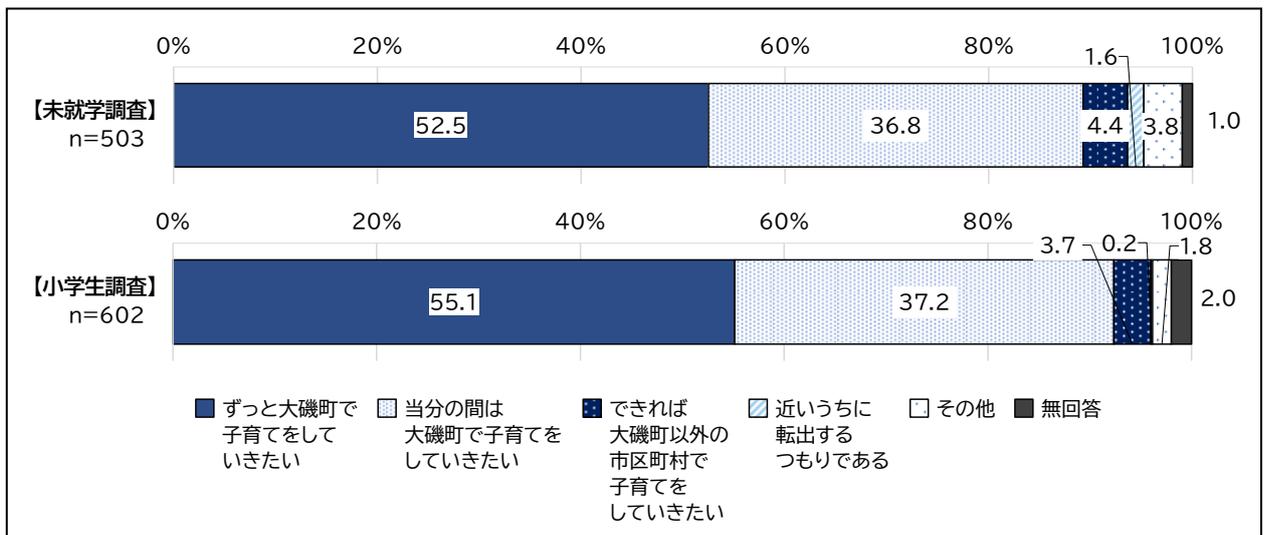


資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

### (4) 今後も、大磯町で子育てをしていきたいと思うか

「ずっと大磯町で子育てをしていきたい」、「当分の間は大磯町で子育てをしていきたい」のどちらも未就学より小学生の方が高く、大磯町で子育てをしていきたいという思いは、未就学より小学生の方が高くなっています。

今後も、大磯町で子育てをしていきたいと思うか



資料：（仮称）大磯町こども計画策定にかかるニーズ調査（未就学・小学生）

「第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン」では、人口減少や少子高齢化など、こどもを取り巻く環境が大きく変化する中、様々な施策に取り組んできました。その結果、「今後も大磯町で子育てをしたい」人が、未就学児、就学児ともに9割近くに達しています。

しかし、各サービスをみてみると、保育需要に対して供給不足が見込まれ、放課後児童クラブでは確保方策を超える利用ニーズが見込まれています。また、要支援要保護児童等支援事業等では引き続き、早期発見、適切な保護と対応が必要です。

様々な支援サービスを実施する中で、利用率の低いサービスもあり、広く知っていただく工夫を引き続き行っていく必要があります。

併せてこれまで実施できていないサービスの実施に向けた検討、町独自では難しいサービスについては、周辺の自治体との協力連携を図って進めていくことも検討が必要です。

### 1. 第2期大磯町子ども笑顔かがやきプランの総括

令和2年度から令和6年度までを計画期間とする「第2期大磯町子ども笑顔かがやきプラン」は、毎年度、記載されている事業及び量の見込と確保方策について、進行管理を実施しています。令和4年度には量の見込と確保方策について、中間評価を行い、見込み及び確保方策の修正を行いました。

令和6年度は計画期間最終年度ではありますが、次期計画へとつなげていく必要があることから、現時点（令和2年度～5年度）までの総括を行うものです。

#### (1) 基本方針及び計画の目標値

第2期大磯町子ども笑顔かがやきプランでは、基本方針として①安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進、②家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進、③多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実に掲げています。また、計画の目標値としては、0～14歳人口の割合を評価指標としています。

令和5年度においては、目標値11.5%に対し、10.8%と、0.7ポイント下回る結果となっています。計画期間である令和2年度からみても徐々に減少しています。

	評価指標	単位	現況	R2	R3	R4	R5	R6	目標
実績	0～14歳の人口割合	%	11.5 (H30)	11.1	11.1	10.9	10.8		11.5

## 2. 計画事業の進行状況

### (1) 年度別評価の推移

事業ごとにみると、令和2年度61事業がAであったのに対し、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により事業の縮小や中止があったため、57と減少しています。令和5年度は67事業がAとなっています。

事業評価がCであるものについては、子育て短期支援事業の実施に向けた環境整備（保護者が病気になった場合などに一時的に児童を短期間（7日間程度）預かる「ショートステイ」の施設）と「認定こども園関係」となっています。

年 度	評 価			事 業 数
	A	B	C	
令和2年度	61	33	1	95
令和3年度	56	38	1	95
令和4年度	57	34	4	95
令和5年度	67	25	3	95

#### 【参考】

- A 事業目標を達成した。または達成した事業を継続的に実施できている。
- B 事業目標に達していないが、概ね成果があった。
- C 事業が未着手、または検討段階にある。

### (2) 基本目標別の事業評価

基本目標ごとの事業評価（A + B）を見ると、令和5年度の基本目標23は、計画開始年度の令和2年度と比較して達成数を上回っており、基本目標146では同程度の達成となっています。一方、同期間を比較して達成数を下回った基本目標5の理由は、「認定こども園関係」となっています。

基本目標		R2	R3	R4	R5	項目数
1	子どもたちの生きる力を育む環境づくり	18	9	18	18	19
2	子どもの心豊かな成長を育む環境づくり	13	7	17	16	16
3	子育て家庭にとって安全で安心なまちづくり	22	8	23	23	23
4	地域が支える子育て環境づくり	13	7	13	13	14
5	子育てと仕事の両立支援	12	4	11	11	12
6	心配りが必要な子どもたちへの支援	11	3	11	11	11

令和7年3月 発行

編集 大磯町 町民福祉部 子育て支援課

制作 ●●●●